

第1回 加盟店における不正利用対策の在り方等に関する検討会 議事要旨

日時：令和7年4月11日（金）14時00分～16時00分

場所：経済産業省 別館2階 231会議室

出席委員：

市場委員、片岡委員、河野委員、近藤委員、須田委員、田添委員、中川委員、中島委員、二村委員、福嶋委員

議題：

1. 開会
2. 議事
 - (1) 検討会の開催について
 - (2) 構成員紹介等
 - (3) クレジットカード不正利用被害の状況
 - (4) 不正利用対策の考え方と対策例
 - (5) 現状の整理
 - (6) 自由討議
3. 閉会

議事概要：

- 事務局より、資料1-1、1-2、1-3に基づき、検討会の趣旨等について説明。
- 一般社団法人日本クレジット協会より資料1-4に基づき説明。
- NRI セキュアテクノロジーズ株式会社より資料1-5に基づき説明。
- 事務局より、資料1-6に基づき説明した後、委員による自由討議を実施。

自由討議：

○クレジットカード不正利用に対する捉え方について

- ・ クレジットカードの取扱量が増加していく中、不正利用対策の効果を確認するためには、不正利用の絶対額のみでみるのは違和感がある。不正利用率に着目していく必要があるのではないか。
- ・ なぜ不正利用を防止するのかという視点によって、不正利用額で見るのがよいのか、不正利用率で見るのがよいのかが変わってくるのではないかと。倫理的・社会規範的な視点なのか、消費者の視点なのか、クレジットカードシステム自体の継続性の視点なのか。
- ・ どれか1つの視点に絞りきれものではないので、不正利用額にも不正利用率にも着目していくということではないかと。

- ・ 適正な利用者に利便性高く使ってもらうことと不正利用の防止は最終的に同じゴール。利便性が損なわれないという観点についても忘れないようにすべきではないか。

○加盟店における不正利用対策について

- ・ （加盟店ごとの不正利用額に加えて）加盟店ごとの不正利用率も見ていくと、セキュリティ対策、あるいは不正利用対策の実効性をはかる指標になるのではないか。
- ・ 一度高額な不正利用があると、その加盟店の不正利用率が高くなる可能性があるので、不正利用の件数にも着目していく必要があるのではないか。
- ・ 不正利用率の指標を各業界内で共有できる環境をつくっていくことが必要ではないか。
- ・ 自主的に業界内で実施する方法に加えて、行政が関与する方法も考えられるのではないか。

○セキュリティガイドラインについて

- ・ クレジットカード・セキュリティガイドラインについて、リスクベースでの対応を求めるものへとアップデートしていく必要があるのではないか。
- ・ ガイドラインは十分リスクベースが意識された内容となっており、加盟店にリスクに応じた不正対策の中身を理解してもらうことが重要ではないか。